

## 日 時

平成11年9月2日(木) 10:50~17:30  
3日(金) 9:20~14:35

## 会 場

仙台市青年文化センター(宮城県仙台市)

## シンポジウム事務局

〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4-4-1  
東北薬科大学 機能形態学教室  
TEL 022-234-4181 FAX 022-275-2013

## 実行委員会

木皿憲佐(東北薬大・薬理)	植田弘師(長崎大・薬・分子薬理)
小野寺憲治(東北大・歯・薬理)	櫻田 忍(東北薬大・機能形態)
櫻田 司(第一薬大・生化)	鈴木 勉(星薬大・薬品毒性)
野崎正勝(生産開発科学研)	米澤章彦(東北薬大・機能形態)

## 世話人代表

櫻田 忍(東北薬大・機能形態)

## 世話人

植田弘師(長崎大・薬・分子薬理)	鷓飼 良(名城大・薬・薬品作用)
岡 哲雄(東海大・医・薬理)	小川節郎(日本大学附属板橋病院麻醉科)
小栗一太(九州大・薬・衛生化学)	亀井淳三(星薬大・医療2研)
岸岡史郎(和歌山医大・薬理)	佐藤公道*(京都大・薬・生体機能解析)
鈴木 勉(星薬大・薬品毒性)	高橋正克(長崎大・薬・医療情報)
中村秀雄(大日本製薬)	長瀬 博(東レ・医薬研)
野崎正勝(生産開発科学研)	花岡一雄(東京大・医・麻醉科)
吉川正明(京都大・食糧科学研)	*:研究会事務局

## 第20回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウムプログラム

9月2日(木)

### A 会場 (シアターホール)

10:50 - 11:00 世話人代表挨拶

櫻田 忍 (東北薬大・機能形態)

### 主題1 Nociceptin/Orphanin FQ の新展開

座長 佐藤公道 (京都大・薬・生体機能解析)

植田弘師 (長崎大・薬・分子薬理)

11:00 - 11:20

ノシセプチン受容体遺伝子欠損マウスにおける痛覚過敏現象

○井上 誠<sup>1</sup>、竹島 浩<sup>2</sup>、植田弘師<sup>1</sup> (<sup>1</sup>長崎大・薬・分子薬理、  
<sup>2</sup>東京大・医・薬理)

11:20 - 11:40

ノシセプチンとノシスタチンの痛覚反応

○南 敏明<sup>1</sup>、中野弘行<sup>1</sup>、阿部浩司<sup>2</sup>、芦高恵美子<sup>3</sup>、伊比井信廣<sup>2</sup>、  
森 秀鷹<sup>1</sup>、伊藤誠二<sup>3</sup> (<sup>1</sup>大阪医大・麻酔科、<sup>2</sup>塩野義製薬・新薬研・  
薬理評価部門、<sup>3</sup>関西医大・医化学)

11:40 - 12:00

Nociceptin および関連アナログ [Phe<sup>1</sup>ψ (CH<sub>2</sub>-NH) Gly<sup>2</sup>]

nociceptin (1-13) NH<sub>2</sub> に対する分子薬理的、行動薬理的解析

○稲村省吾、添田裕子、関 貴弘、中川貴之、南 雅文、佐藤公道  
(京都大・薬・生体機能解析)

12 : 00 - 12 : 20

マウス脊髄シナプス膜標品によるノシセプチンの代謝

○櫻田 誓<sup>1</sup>、櫻田 忍<sup>2</sup>、米澤章彦<sup>2</sup>、櫻田 司<sup>1</sup> (<sup>1</sup>第一薬大・生化、  
<sup>2</sup>東北薬大・機能形態)

12 : 20 - 12 : 40

Nociceptin/Orphanin FQ による学習・記憶調節機構の解明

○平松正行、井上かおり (名城大・薬・薬品作用)

### **B 会場 (交流ホール)**

#### **ランチョンセミナー**

座長 小川節郎 (日本大学附属板橋病院麻酔科)

12 : 40 - 13 : 40

「がんの痛みを癒す」

— 一般病院における緩和ケア —

○高宮有介 (昭和大学病院麻酔科・緩和ケアチーム)

### **A 会場 (シアターホール)**

#### **主題 2 疼痛治療の現状と展望**

座長 小川節郎 (日本大学附属板橋病院麻酔科)

花岡一雄 (東京大・医・麻酔科)

13 : 50 - 14 : 10

モルヒネの効かない癌疼痛に対するケタミン併用の有用性

○合田由紀子 (市立札幌病院・麻酔科)

14 : 10 - 14 : 30

慢性有痛性良性疾患に対するモルヒネ長期投与

○加藤佳子、小田真也、加藤 滉（山形大学医学部附属病院・麻酔科  
蘇生科）

14 : 30 - 14 : 50

ニューロパシクペインにおけるドラッグチャレンジテストの有用性

○加藤 実<sup>1)</sup>、佐伯 茂<sup>1)</sup>、小川節郎<sup>2)</sup>（駿河台日本大学病院・麻酔  
科<sup>1)</sup>、日本大学医学部麻酔科<sup>2)</sup>）

14 : 50 - 15 : 10

慢性疼痛患者におけるブプレノルフィン舌下錠の使用状況

○有田英子、山本博俊、内田寛治、角田俊信、井手康雄、矢島 直、  
花岡一雄（東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター）

15 : 10 - 15 : 30

小冊子を用いたモルヒネ服薬指導の有無と癌疼痛除痛率の変化

○平賀一陽（国立がんセンター中央病院・手術部）

15 : 40 - 16 : 20 感謝状及び記念品の贈呈式

**A 会場（シアターホール）**

**招待講演**

座長 櫻田 忍 （東北薬大・機能形態）

16 : 30 - 17 : 30

Absorptive-mediated transcytosis 機構に基づいたオリゴペプ  
チドの脳へのデリバリー

○寺崎哲也（東北大院・薬・薬物送達）

18 : 30 - 20 : 00

**懇親会（江陽グランドホテル）**

地下鉄「広瀬通駅」下車 徒歩1分

9月3日（金）

**A 会場（シアターホール）**

**トピックス**

座長 鈴木 勉 （星薬大・薬品毒性）

9 : 20 - 9 : 40

エピバチジンーヤドクガエルから発見された超強力鎮痛物質

○樹林千尋（東京薬大・薬・薬品化学）

### **主題3 - 1 オピオイド研究の進歩と展望**

座長 岡 哲雄 （東海大・医・薬理）

岸岡史郎 （和歌山県立医大・薬理）

9 : 40 - 10 : 00

癌細胞移植マウスにおける疼痛反応と癌細胞の増殖・転移に対する morphine の効果

○笹村 崇<sup>1</sup>、中村恵暢<sup>1</sup>、飯田優子<sup>1</sup>、藤猪英樹<sup>2</sup>、村田 純<sup>2</sup>、  
 済木育夫<sup>2</sup>、倉石 泰<sup>1</sup>（<sup>1</sup>富山医薬大・薬品作用、<sup>2</sup>富山医薬大・  
 病態生化）

10 : 00 - 10 : 20

TRK-820 の鎮痛作用におけるモルヒネとの相乗効果

○田中利明、泉本直樹、鈴木知比古、斉藤顕宣、松浦博敏、川村邦明、  
 遠藤 孝、長瀬 博（東レ・医薬研）

10 : 20 - 10 : 40

アンチセンスオリゴデオキシヌクレオチドのオピオイド受容体mRNA量に対する効果

○吉川正信、小林広幸、北村 憲、小林智美、安藤英祐<sup>1</sup>、矢野 広<sup>1</sup>、  
牧山 恵<sup>2</sup>、竹山和秀<sup>3</sup>、高谷哲夫<sup>3</sup>、岩尾佳代子、岡 哲雄  
(東海大・医・薬理、<sup>1</sup>東海大・医・精神科、<sup>3</sup>東海大・医・麻酔科、  
<sup>2</sup>開発工学部生物工学科)

10 : 40 - 11 : 00

内在性オピオイドペプチドの抗侵害効果に及ぼすペプチダーゼ阻害剤の効果

北村 憲、○金井昌之、赤堀一仁、中林 大、高橋 滋、  
矢野 広\*、安藤英祐\*、荒井美治、岩尾佳代子、小林広幸、  
岡 哲雄 (東海大・医・薬理、\*東海大・医・精神科)

11 : 00 - 11 : 20

モルヒネ禁断時のラット尾側中脳水道周囲灰白質プレプロエンケファリン mRNA 増加における転写調節因子の役割

○福永優子、岸岡史郎、清水典史、深澤洋滋、宮本昌彦、前田武彦、  
山本博之 (和歌山県立医大・薬理)

11 : 20 - 11 : 30 休憩

## ポスター発表 B 会場 (交流ホール)

11 : 30 - 12 : 40

### 1. 電位依存性カルシウムチャンネル $\beta$ 3サブユニット欠損マウスにおける痛覚の検討

○村上 学、中川西 修\*、穂積壮一\*、丹野孝一\*、只野 武\*、柳澤輝行、谷内一彦\*\*、渡邊建彦<sup>#</sup>、木皿憲佐\* (東北大・医・分子薬理、\*東北薬大・薬理、\*\*東北大・医・臨床薬理、<sup>#</sup>東北大・医・細胞薬理)

### 2. 痛みの受容におけるヒスタミンH1受容体の役割：H1受容体ノックアウトマウスを用いた研究

○Jalal Izadi Mobarakeh<sup>1, 2</sup>、櫻田 忍<sup>3</sup>、渡辺 武<sup>4</sup>、橋本保彦<sup>2</sup>、渡邊建彦<sup>1</sup>、谷内一彦<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東北大・医・薬理、<sup>2</sup>東北大・医・麻酔科、<sup>3</sup>東北薬大・機能形態、<sup>4</sup>九州大・生体防御医学)

### 3. 脊髄腔内におけるORL-1受容体の痛みへの関与—Nociceptin及び非ペプチド性合成ORL-1受容体拮抗剤を用いた薬理的検討—

○上野義信、朱雀鉄城、横井智規、中田恵理子、伊藤文隆、樽林陽一、長久 厚 (ファイザー製薬・中央研)

### 4. 選択的ORL-1受容体リガンドの*in vitro*でのアゴニストおよびアンタゴニスト作用の検討

○山田善也、朱雀鉄城、大橋雅津代、横山政幸、伊藤文隆、樽林陽一、長久 厚 (ファイザー製薬・中央研)

### 5. 新規オピオイドペプチドの抗侵害作用

○萩原正樹<sup>1</sup>、宮前哲久<sup>1</sup>、岡山 徹<sup>1</sup>、森川忠則<sup>1</sup>、櫻田 司<sup>2</sup>、櫻田 忍<sup>3</sup> (<sup>1</sup>富士薬品工業・研究部、<sup>2</sup>第一薬大・生化、<sup>3</sup>東北薬大・機能形態)

6. Endomorphins の健忘誘発作用機序  
○林 恵萍、鶴飼 良 (名城大・薬・薬品作用)
7.  $\mu$ オピオイド受容体ノックアウトマウスの行動薬理学的特性  
○船田正彦<sup>1)</sup>、曾良一郎<sup>2)</sup>、原 千高<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一薬大・薬理、<sup>2)</sup>IRP,NIDA,NIH,Baltimore,MD,USA)
8. ジヒドロエトルフィン含有経皮吸収製剤による鎮痛耐性と依存性に関する研究  
○大森悟史<sup>1</sup>、方 亮<sup>1</sup>、林 輝朗<sup>1</sup>、河瀬雅美<sup>2</sup>、斎藤節生<sup>2</sup>、森本雍憲<sup>1</sup> (城西大・薬・病院薬剤学<sup>1</sup>、城西大・薬・臨床薬物化学<sup>2</sup>)
9. マウス小腸蠕動運動に及ぼすデルモルフィン誘導体 H-Tyr-D-Arg-Phe- $\beta$ -Ala-OH の抑制効果  
○新島富紀枝、高橋則男、中川西 修、只野 武、丹野孝一、木皿憲佐 (東北薬大・薬理)
10. ホルマリン足蹠内投与による脊髄内一酸化窒素の増加と L-NAME の効果  
○奥田一博<sup>1</sup>、櫻田 誓<sup>2</sup>、高橋三津雄<sup>1</sup>、山田達夫<sup>1</sup>、渡邊千寿子<sup>3</sup>、安藤隆一郎<sup>3</sup>、櫻田 司<sup>2</sup> (<sup>1</sup>福岡大・医・内科健康管理科、<sup>2</sup>第一薬大・生化、<sup>3</sup>東北薬大・実験動物センター)
11. 糖尿病マウスにおける endomorphin-1 および endomorphin-2 誘発抗侵害効果  
○圖子田 康<sup>1</sup>、長瀬 博<sup>2</sup>、亀井淳三<sup>1</sup> (<sup>1</sup>星薬大・医療薬学第二、<sup>2</sup>東レ・医薬研)



12. エピバチジン誘導体 ABT-594 の抗侵害作用

○林 貴史<sup>1</sup>、折戸 融<sup>1</sup>、内山弘子<sup>1</sup>、鈴木奈緒子<sup>1</sup>、轡 基治<sup>1</sup>  
新井絹恵<sup>1</sup>、米澤章彦<sup>1</sup>、櫻田 忍<sup>1</sup>、鈴木 勉<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東北薬大・  
機能形態、<sup>2</sup>星薬大・薬品毒性)

13. Nociceptin antagonist の鎮痛および学習促進作用

○Yunden Jinsmaa、吉川正明 (京都大・食糧科学研)

A 会場 (シアターホール)

主題 3 - 2 オピオイド研究の進歩と展望

座長 中村秀雄 (大日本製薬)

長瀬 博 (東レ・医薬研)

12 : 50 - 13 : 10

(+) TAN-67 誘発侵害反応における各種 opioid 受容体作動薬の  
影響

○矢島義識<sup>1</sup>、長瀬 博<sup>2</sup>、鈴木 勉<sup>1</sup> (<sup>1</sup>星薬大・薬品毒性、<sup>2</sup>東レ・  
医薬研)

13 : 10 - 13 : 30

疼痛およびオピオイド鎮痛発現機構における IP<sub>3</sub>ならびに protein  
kinase C (PKC) の関与

○成田 年<sup>1)、2)</sup>、溝口広一<sup>1)</sup>、鈴木 勉<sup>2)</sup>、長瀬 博<sup>1)、3)</sup>、  
Leon F.Tseng<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> ウィスコンシン医大・麻酔科、<sup>2)</sup> 星薬大・薬品毒性、<sup>3)</sup> 東レ・  
医薬研)

13 : 30 - 13 : 50

内因性 enkephalin 分解酵素阻害物質 spinorphin のラット海馬およびマウス輸精管における作用

○小野秀樹<sup>1</sup>、山崎貴信<sup>1</sup>、高山仁子<sup>1</sup>、本多基子<sup>1</sup>、山本行男<sup>2</sup>、  
羽里忠彦<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東京理大・薬・薬理、<sup>2</sup>東京都臨床研・分子腫瘍)

13 : 50 - 14 : 10

システインプロテアーゼ阻害剤の脊髓ダイノルフィン系を介する侵害刺激抑制作用

○丹野孝一<sup>1)</sup>、平 亜希<sup>1)</sup>、大島清史<sup>1)</sup>、Lars Terenius<sup>2)</sup>、  
木皿憲佐<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東北薬大・薬理、<sup>2)</sup>カロリンスカ研・臨床神経科学)

14 : 10 - 14 : 30

International Narcotic Research Conference (INRC) 報告  
鈴木 勉 (星薬大・薬品毒性)

14 : 30 - 14 : 35

次期世話人代表挨拶

閉会の辞